

外国人観光客にした小さな親切

東京都 両国中学校 3年 梓沢 嶺

4年後に開催される東京オリンピックもあってか、私の住む両国の街にも、いろいろな国からたくさんの観光客が訪れてきます。両国といえば、日本の国技である相撲が行われる両国国技館が有名です。聞いた話によると、両国国技館も、東京オリンピックの際にはボクシングの会場として使われるということで、私もうれしく思っています。

先日、駅からの帰り道に文房具屋に立ち寄りしました。買い物をすませ、店から出ると、後ろから外国の言葉で話しかけられました。その方は男性で、アジア寄りのヨーロッパ人のような感じで英語を話します。彼は、英語で書かれたパンフレットを片手に、「これはどこにありますか」と私に尋ねます。彼の行こうとしている場所は、相撲ミュージアムでした。

このとき、私は相撲ミュージアムを知らず、(多分、外国では国技館のことを相撲ミュージアムと呼ぶのだろう)と、勝手な解釈をしました。学校で英語を勉強しているにも関わらず、カタコトの英語しか話すことのできない私は、説明するのも面倒なので案内することにしました。

「レッツゴー。」

と言い、横並びで相撲ミュージアムへ向け歩きます。短い時間ではありましたが、私も必死に英語で話をしました。彼は、スペインのマドリードから日本に観光目的で訪れたらしく、前日に日本に着いたそうです。マドリードといえばサッカーだろうと思い聞くと、彼もサッカーをよく見に行くと言っていました。

話しているとあっという間で、国技館に着いていました。このときは、両国で相撲をやる時期ではなかったため、人は少なめで、案内しやすかったです。私の予想通り、相撲ミュージアムとは、国技館の中にある展示室のことだったようで、安心しました。

到着すると、彼はうれしそうに私と握手をし、スペインのものだというステッカーを1枚くれました。このときにもらったステッカーは、今も大切に保管してあります。

私は、何度か外国の人に話しかけられたことがあります。このときに出会ったスペインの人にしたような「案内」をしたことはありませんでした。このときのことは今でも鮮明に覚えています。それほど、自分にとっては大きなできごとだったのかもしれない。

オリンピックの開催が近づく中、私のした小さな親切は、ホスト国の人間としてすごく必要なことなのだと思います。違う国の人だからとシャイにならず、今後も積極的に親切なことをしていこうと思いました。